

SHIRAKOBATO

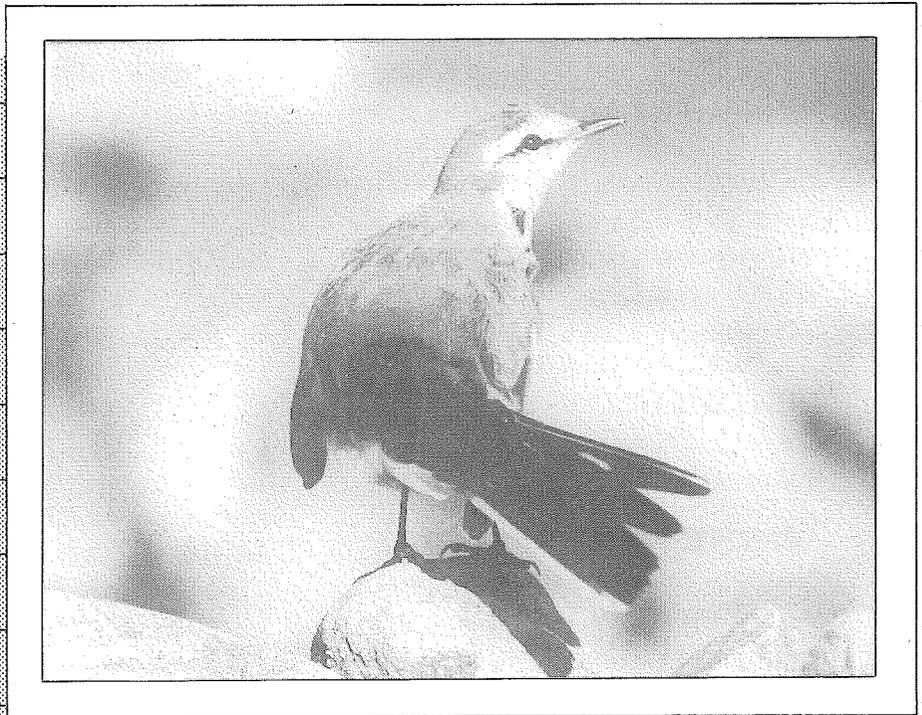
しらこぼと



1989. 12

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 67

日本野鳥の会 埼玉県支部



むかしは典型的な田園地帯、いまは都市化のすすむ市街地。私のフィールド越谷市は、まるで埼玉県の縮図のような地域です。

観察は、通勤や退勤の途中、散歩など、こま切れの時間を利用して

います。そんなある一断面の観察でも、それを10年分近く並べますと、越谷市の鳥相の全体像が、おぼろげながら浮かびあがってきます。

今回は、ここ1、2年ほどのシラコバトの様子と私の好きな探鳥地をご紹介します。

(1) いま、シラコバトは～ (地図C)

ぼっぼっぼ 鳩ぼっぼ

豆が欲しいか そらやるぞ

みんなで仲よく 食べに來い

文部省唱歌「はと」のモデルはシラコバトだそう。このシラコバト、確かに市内全域に生息する。が、ここ1、2年、その密度が薄くなった気がする。密度の濃さと数の多さをほこっていた増林地区ですら、シラコバトを見る探鳥会を開くことができない。増林での減少の原因は、10軒以上あった養鶏場が1軒に減少したことによるものだろう。その1軒も野鳥が鶏舎の中に自由に出入りできないしくみになっており、養鶏飼料を採餌していたシラコバトにとって、増林はもはや採餌場ではないのかもしれない。人間への依存度の高さにおどろく。

現在、越谷市内で最も多く見ることができるところは、北越谷の養鶏場だろう。この養鶏場は、鶏舎内にシラコバトが自由に出入りできるようになっている。しかし、人間は、道路から観察するにとどめたい。

(2) 古利根川 (地図A)

身近な場所での野鳥観察、その楽しさを教えてくれたのが、寿橋から堂面橋までの古利根川だ。季節は冬にかぎる。めあてはカモ類やカモメ類だ。とにかく、鳥までの距離が短い。ビギナーにはもってこいの地だ。種類もそこそこに多く、個体数も多い時で700をもこえる。カモメ類のなかに、いつか珍鳥も混じることを期待して、観察のたびに1羽1羽たんねんに見ている。

観察は、松伏側の岸を上流に向かって行るのが具合がよい。午前中なら順光でもある。

交通は、東武伊勢崎線「北越谷」駅東口より野田行きバスに乗り「新方橋」で下車。帰りは、堂面橋近くのバス停「松伏」より「越谷」・「北越谷」行きに乗車するのが便利だ。

(3) 宮内庁埼玉鴨場 (地図B)

もちろん場内には入れない。少しでも皇室関係のことでマスコミに注目されることがあると、機動隊が警備につく。私も何度か声をかけられた。しかし、元荒川の土手から観察するぶんには問題はない。

12、1、2月の夕方が最も楽しい。午後4時ごろ、カワウ、ダイサギ、コサギが時をとるべくぞくぞくと場内へ突入していく。4時半ごろから、万を越すムクドリ群舞が始まる。元荒川をはさんで対岸から見る様は、西日を浴びてことに見事である。ひるがえる瞬間、金色にかがやく。やがて一斉に鴨場へ沈む。5時半ごろからは、1万以上はいるといわれているカモ達が採餌場へ出かけていく。ほどなくあたりは闇につつまれるが、カモの羽音はいつまでも続いている。人には、ちょっとしたヒッチコックの『鳥』の世界が味わえると吹聴している。

東武伊勢崎線「北越谷」駅より徒歩15分。

(4) 健康福祉村の調整池 (地図D)

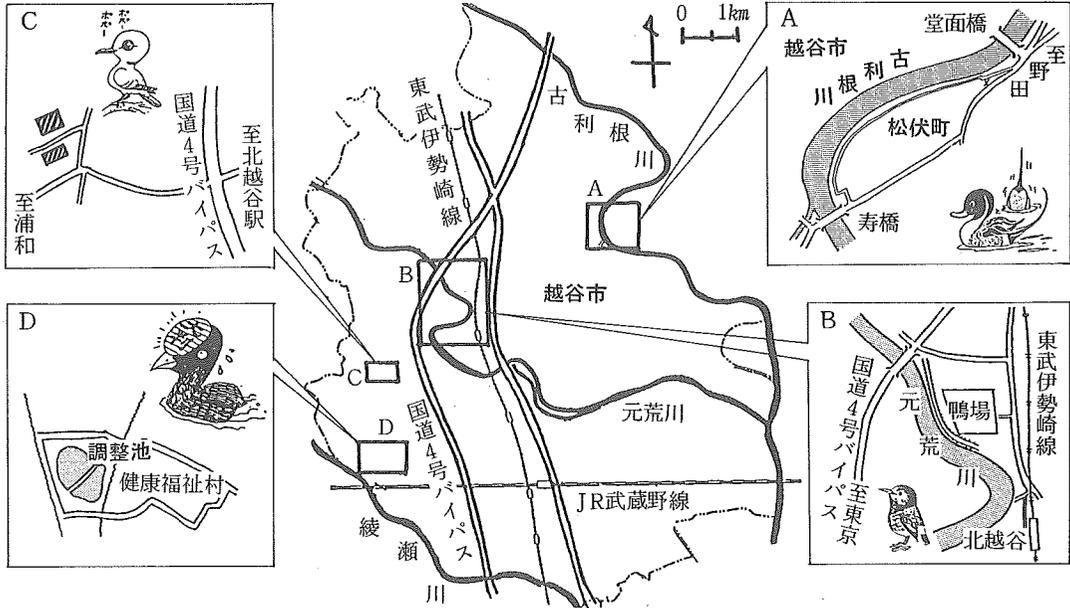
越谷一のホットゾーンだ。ヨシゴイ、クイナ、ヒクイナ、バン、オオバンに注目している。ヨシゴイは行けば必ず、他は小雨の時に出現率が高い。オオバンの繁殖を期待。

交通は車の利用をおすすめする。

身の回りの野鳥観察は、いつでも気軽にできるからよい。記録が増えてくると新しい発見が次々と生まれてくる。同じカワセミでも、

越谷のカワセミはとびきりの器量よしだということもわかってくる。実に楽しい。

しかし、仕事にふと目に入ったヒヨドリまでも、知らず知らずカウントしている自分に苦笑する。
(山部直喜)



	古利根川	埼玉鴨場	調整池
	春夏秋冬	春夏秋冬	春夏秋冬
ハジロカイツブリ	○	○	○
カイツブリ	○	○	○
カワウ	○	○	○
ヨシゴイ	○	○	○
ゴイサギ	○	○	○
ダイサギ	○	○	○
チュウサギ	○	○	○
コサギ	○	○	○
アオサギ	○	○	○
コハクチョウ	○	○	○
オシドリ	○	○	○
マガモ	○	○	○
カルガモ	○	○	○
コガモ	○	○	○
トモエガモ	○	○	○
ヨシガモ	○	○	○
オオヨシガモ	○	○	○
ヒドリガモ	○	○	○
アメリカヒドリ	○	○	○
オナガガモ	○	○	○
ハシビロガモ	○	○	○
ホシハジロ	○	○	○
キンクロハジロ	○	○	○
ハヤブサ	○	○	○
コジュケイ	○	○	○
クイナ	○	○	○
ヒクイナ	○	○	○
バン	○	○	○
オオバン	○	○	○
コチドリ	○	○	○
イカルチドリ	○	○	○
ムナグロ	○	○	○
ハマシギ	○	○	○
アオアシシギ	○	○	○
イソシギ	○	○	○

	古利根川	埼玉鴨場	調整池
	春夏秋冬	春夏秋冬	春夏秋冬
タシギ	○	○	○
ユリカモメ	○	○	○
セグロカモメ	○	○	○
ウミネコ	○	○	○
アジサシ	○	○	○
シラコバト	○	○	○
キジバト	○	○	○
カツコウリ	○	○	○
アオバズク	○	○	○
フクロウ	○	○	○
カワセミ	○	○	○
ヒバリ	○	○	○
ツバメ	○	○	○
イワツバメ	○	○	○
ハクセキレイ	○	○	○
セグロセキレイ	○	○	○
ヒヨドリ	○	○	○
モズ	○	○	○
ジョウビタキ	○	○	○
ツグミ	○	○	○
ウグイス	○	○	○
オオヨシキリ	○	○	○
セッカ	○	○	○
シジュウカラ	○	○	○
ホオジロ	○	○	○
カシラダカ	○	○	○
カワラヒワ	○	○	○
スズメ	○	○	○
ムクドリ	○	○	○
オナガ	○	○	○
ハシボソガラス	○	○	○
ハシブトガラス	○	○	○
ドバト	○	○	○

春……3, 4, 5月 夏……6, 7, 8月 秋……9, 10, 11月 冬……12, 1, 2月
上のリスト表は、1982年4月1日より1989年10月2日までに、山部が直接に生息を確認した鳥種である。

関ブロ・レポート

関ブロというのは、お風呂の一種ではありません。関東地区の各支部の代表者たちが集まって、それぞれの支部の抱える問題などを話し合い、勉強し合う関東ブロック協議会のことです。

集まったのは27人

年に2～3回のペースで、各支部持ちまわりで担当して開催される関ブロ協議会、今回は栃木県支部が幹事役となり、9月9日(土)と10日(日)の2日間、栃木県塩谷郡塩谷町大字なんとか字なんとかの山の中、『鳥羽の湯』という、聞いただけでも恐ろしい秘境に、なんと27人もが集まった。

山また山を越えてたどり着いた旅人たちの苦労話は今回は割愛。そのなかには、当埼玉県支部の鈴木支部長、海老原副支部長、北川幹事の3名もまじっていたのだ。

クイズの時間

Q：関ブロにはいくつの支部があるか。その支部名を全部あげよ。

A：吾妻・茨城・奥多摩・神奈川・群馬県・埼玉県・千葉県・東京・栃木県の9支部。

正解者は自分で自分をほめること。



鈴木支部長も真剣に

極めて率直に各支部の報告

先ず、各支部からの報告が行われた。

当支部からは、『しらこぼと』の記事をベースに、支部長が交代したこと、リーダー研修会を今年も実施したこと、会員数が1,000人を越えたことなどを報告した。

他支部からは、例えば東京支部から、会員数が4,000人にもなることから起こるいろいろな問題、支部運営の難しさ、執行部にたいして寄せられるさまざまな意見など、極めて率直な報告がされた。

千葉県支部からは「会員数が1,000人に達したら、三種郵便の認可をとって、経費節減につとめたい。小櫃川河口を守る運動を展開したい」などの報告。そのほか各支部から、

それぞれの活動に基く、力強い報告が相ついだ。

意見交換など

その後の話し合いとしては、役員会の運営方法、委員会(埼玉県支部では部会)制度、早朝・平日などの探鳥会、リーダー研修会などが話題となったが、このへんの話し合いは大変まじめ、ちょうちょうはっして、レポーターとしても、ふざけている暇は全くないほどだった。

中でも、毎年リーダー研修会を実施しているのは、支部多しといえども、わが埼玉県支部だけであることから、当支部のリーダー研修会に対する各支部の関心は高く、話題が集中した。

とうぜん、懇親会

3時間に及ぶ会議が終わったあとは、とうぜん懇親会だが、だだだがかし、懇親会といえども油断はならない。ただよっぽらって遊んでいれば良いものではない。ここでは、より率直な意見交換、実態暴露、衝撃の告白などが続いて、レポーターとしては緊張のしっぱなし、いっこうに酔いがまわらず、何を話したのかもさっぱりおぼえていない。

支部運営への反映

関東地区各支部の結束を固め、視野を広げ、より良い支部活動の展開に大きな力となりうるのが(主としてまじめな部分の)この会議。今回の会議の成果も、役員会でくわしく報告され、支部活動へ反映される。

支部の幹事たちは、こんな仕事もしているのです。(レポーター・海老原美夫)



ヤマセミもいた鳥羽の湯



||||| ゴルフ場についての素朴な感想 |||||

海老原美夫 (浦和市)

10月14日付けの埼玉新聞に掲載された、県企画財政部が13日にまとめた10月1日現在の県内ゴルフ場立地状況によると、県内のゴルフ場は、

既設営中	58カ所	5,143 ha
造成工事中	15カ所	1,790 ha
開発許可事前審査中	14カ所	約1,478 ha
承認前の立地調整中	5カ所	約508 ha
合計	92カ所	約8,919 ha

にも及んでいます。

県の全面積は、379,932 haですから、その約2.35%を占めることになります。

浦和市の面積は7,103 ha、大宮市は8,891 ha、熊谷市は8,597 haです。これら大都市の全面積以上の広い部分なのです。

なぜこんなにゴルフ場が必要なのでしょう。ゴルファーたちは、ゴルフ場が、もともとその地域にあった自然の生態系を破壊するだけでなく、大量の農業使用などで、周辺環境にまで害を及ぼしていることを、多分、ごぞんじないのでしょうか。

もし知っていたら、恥ずかしくて、ゴルフなんてできなくなると思うのですが。



— またもや、ごめんなさいコーナー —

11月号2ページ右段の1行目が間違っていました。正しい文章にすると、

「1970年代後半、埼玉では秩父山地とその前面東側の丘陵で観察されている（小杉1978）。」となります。

3行目の「入りり」は「入り」です。訂正してお詫びします。



押川歳子

||||| 渡り鳥の危機 北海道・風蓮湖 |||||

小荷田行男 (浦和市)

1989年10月15日、鉄砲の音を聞きながら風蓮湖の水鳥のカウント調査を地元の研究者・松尾武芳氏と行ない、オオハクチョウ2、コクガン350、ヒシクイ105、カモ類10,800以上、タンチョウ28等を得た。

北海道東部、根室、花咲半島の根元に広がる風蓮湖は、渡り鳥、特に水鳥の重要な渡りの休息地となっている。北海道一千島列島一カムチャッカ・コース及び北海道一カラフト・コースの二大渡りルートのに位置している。オオハクチョウ、コクガン、ヒシクイ（亜種ヒシクイ）、コガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、スズガモなどのガン・カモ科、メダイチドリ、キョウジョシギ、トウネン、ハマシギ、アオアシシギ、タカブシギ、キアシシギのシギ・4類が、春と秋の渡りの季節に多い。またタンチョウの繁殖地でもある。

風蓮湖は今、猟期である。正確に言えば湖水面は道設鳥獣保護区であるが、水鳥の餌場とねぐらとなる風蓮川、ヤウシュベツ川、別当賀川などの流入河川が造る広大な面積の河口湿原は、ほとんど全て猟区となっている。

風蓮湖のラムサール条約指定湿原返上、国定公園昇格にも消極姿勢をとる地元行政当局は、風蓮湖の一部である春国岱のサンクチュアリ化を免罪符として風蓮湖岸、根室一別海間に道路建設をもくろんでる。日本における渡り鳥の重要な中継地である風蓮湖は、今、その重大な岐路に立たされている。



ハジロカイツブリ ◇9月30日午前9時、狭山湖で2羽。ルビーのような目が印象的でした(三田長久)。
カンムリカイツブリ ◇10月9日、狭山湖で5羽(三田長久)。
コハクチョウ ◇10月18日、本庄市の阪東大橋下流で成鳥2羽、幼鳥1羽(町田好一郎)。
カルガモ ◇10月9日午前10時、狭山湖で2羽が向い合って首を上下に振る挨拶をかわした後、交尾する(三田長久)。
シマアジ ◇9月21日、本庄市の阪東大橋下流でコガモの群れ中に1羽(井上幹男)。
キンクロハジロ ◇10月9日、狭山湖で4羽(三田長久)。◇10月29日、浦和市の大崎植物園の公園内の池で1羽(藤野富代)。
ホシハジロ ◇10月8日午後4時40分、浦和市の芝川で♂4羽♀2羽(大武昭雄)。◇10月9日、狭山湖で♂9羽♀9羽(三田長久)。◇10月10日、戸田市道満で♀1羽(海老原美夫)。◇10月18日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(町田好一郎)。
ハチクマ ◇10月10日、戸田市道満で1羽(高橋達也)。
オオタカ ◇9月23日、吉見町南吉見の市野川の土手で1羽(市川計彦)。◇9月24日、毛呂山町の物見山で成鳥1羽、幼鳥1羽(市川計彦)。◇9月30日、川島町の市野川の土手の樺杭に幼鳥1羽。コジュケイを襲うが失敗する(市川計彦)。
ハイツカ ◇9月24日、毛呂山町の物見山で成鳥1羽がイカルの群れを追う(市川計彦)。
サシバ ◇9月12日、戸田市道満で幼鳥1羽(駒崎政雄)。◇9月23日、吉見町の吉見百穴で1羽(市川計彦)。◇9月26日、本庄市の阪東大橋下流で7羽(井上幹男)。◇9月30日、戸田市新曽南上空で24羽。西へ飛ぶ(駒崎政雄)。◇10月1日、浦和市の鴨川排水機場付近で7羽(近藤 崇)。◇10月1日午前6時~午前10時、戸田市道満で7羽(蕨高校生物部)。
ノスリ ◇9月24日、毛呂山町の物見山で1

羽。高空でホバリング(市川計彦)。
チュウヒ ◇9月12日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(市川計彦)。
ハヤブサ ◇9月26日、本庄市の阪東大橋下流で1羽。カケスをとる(井上幹男)。
チョウゲンボウ ◇9月30日、川島町の市野川付近の農耕地で1羽。3羽のカラスにしつこくモビングされていた(市川計彦)。
◇10月4日、大宮駅西口上空で1羽。ソニック、丸井、そごうの上空を悠然と旋回していた(金子明弘)。◇10月8日、富士見市の柳瀬川で1羽(藤原寛治)。
ダイゼン ◇9月29日、戸田市道満で2羽(駒崎政雄)。
ヒバリシギ ◇9月1日、戸田市道満で1羽(駒崎政雄)。
オジロトウネン ◇10月8日、戸田市道満で4羽。10日にも見られた(海老原美夫)。
アメリカウズラシギ ◇10月8日、戸田市道満で1羽。10日にも見られた(海老原美夫及び高橋達也)。
オバシギ ◇9月12日、戸田市道満で1羽。左足指の少し上の部分がなかった(駒崎政雄)。
エリマキシギ ◇9月1日、戸田市道満で4羽(駒崎政雄)。◇9月19日、本庄市の阪東大橋下流の干潟で1羽(井上幹男)。◇9月24日、浦和市秋ヶ瀬A区で1羽(近藤 崇)。
アカアシシギ ◇9月29日、戸田市道満で2羽。アオアシシギ19羽とともにいた(駒崎政雄)。10月8日、同所で2羽(海老 美夫)。
コアオアシシギ ◇9月12日、戸田市道満で12羽(駒崎政雄)。
オグロシギ ◇9月29日、戸田市道満で6羽(駒崎政雄)。
オオソリハシシギ ◇9月15日、本庄市の上武大橋下流の干潟で1羽(井上幹男)。
セグロカモメ ◇9月30日、本庄市の上武大橋下流で1羽(井上幹男)。
ツツドリ ◇10月1日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で4羽(近藤 崇)。◇10月23日、嵐山町の菅谷館跡の桜の枝で1羽(橋本博夫

・千枝子)。

アマツバメ ◇9月30日、本庄市の上武大橋下流でショウドウツバメの群れの中に2羽(井上幹男)。◇9月30日、狭山市沢久保の自宅上空で約30羽(三田長久)。◇10月13日、蕨市錦町で3羽(浅沼源太本)。◇10月24日、吹上町明用で約20羽(森本國夫)。

アジサシ ◇10月9日、狭山湖で1羽。たる状のブイの上で休んでいた(三田長久)。

アリスイ ◇9月30日、本庄市の上武大橋下流の立木で1羽(井上幹男)。◇10月8日、戸田市の荒川河川敷で1羽(高橋達也)。◇10月10日、戸田市道満で1羽(高橋達也)。

アカゲラ ◇9月30日、本庄市の上武大橋下流の干潟近くのアカシアの木で♀1羽(井上幹男)。

ツメナガセキレイ ◇9月24日、浦和市秋ヶ瀬A区で2羽(近藤 崇)。

ジョウビタキ(初認) ◇10月17日、所沢市三ヶ島地区で♂1羽(渡辺 敦)。◇10月18日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽(町田好一郎)。◇10月21日、熊谷市西別府の自宅で木枯しの朝に♂1羽(諏訪隆久)。◇10月25日、深谷市八日市で♂1羽(荻野ときじ)。◇10月25日、戸田市の荒川河川敷で1羽(浅沼源太郎)。◇10月26日、嵐山町の菅谷公園に♂1羽。菅谷館跡の西郭と南郭に♂各1羽(橋本博夫、千枝子)。◇10月29日、浦和市見沼の野田小学校のそばで♂1羽(藤野富代)。◇10月30日、浦和市本太で♀1羽(藤野富代)。

ノビタキ ◇9月22日午後4時、本庄市の阪東大橋下流の入江の岸で1羽。カワセミを撮る為にセットしたカメラのブラインドの上にとまる。ついでにストロボの上に白い「お土産」を1ヶおいて行く(町田好一郎)。

表紙の写真

◇9月29日、戸田市道満で1羽(駒崎政雄)。

◇9月30日、狭山市入間川の広瀬橋付近で4羽(三田長久)。◇10月1日、浦和市秋ヶ瀬A区で1羽(田中富夫)。

マミチャジナイ ◇10月2日、戸田市の戸田公園で1羽(高橋達也)。

メボソムシクイ ◇10月1日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で2羽(近藤 崇)。

キビタキ ◇9月29日、戸田市道満で♀1羽(駒崎政雄)。◇10月1日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♂2羽(近藤 崇)。◇10月14日、深谷市の仙元山公園で♂1羽。美しい!!思いがけない出会いだったので感激♡(高橋夕香子)。

オオルリ ◇10月1日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♂の若鳥1羽(近藤 崇)。◇10月1日~2日、戸田市の戸田公園で♀1羽(高橋達也)。

サメビタキ ◇9月29日、戸田市道満で1羽(駒崎政雄)。◇10月1日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽(近藤 崇)。◇10月21日、戸田市の戸田公園で1羽(高橋達也)。

エゾビタキ ◇9月29日、戸田市道満で1羽(駒崎政雄)。◇10月1日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽(近藤 崇)。◇10月4日、戸田市の戸田公園で3羽(高橋達也)。◇10月5日、嵐山町の菅谷館跡の栗林で2羽(橋本博夫、千枝子)。◇10月9日、狭山湖畔の公園で1羽(三田長久)。◇10月10日、熊谷市大麻生で3羽。

コサメビタキ ◇9月21日、本庄市の阪東大橋下流で3羽(井上幹男)。◇10月2日、戸田市道満で2羽(高橋達也)。◇10月8日、三芳町多福寺で1羽(藤原寛治)。◇10月14日、深谷市の仙元山公園で3羽(高橋夕香子)。

1989 バードフォトコンテスト入選作

ハクセキレイ (セキレイ科)

カメラの前でツンとおすまし? いいえ、これは羽づくろいの最後の仕上げ。

まずは足を使って頭カキカキ、お次は羽をバサバサ、最後に尾の付け根から脂をちょっととって、身体中にナデナデ。仕上げが尾羽

をくちばしでツツーッとごいておしまい。

これは尾羽の右側をちょうどごき終ったところなんです。

1988年10月14日/八王子市多摩川にて

(登坂久雄・八王子市)

行事あんない



北川辺町・渡良瀬遊水池探鳥会

期日：12月3日（日）
集合：午前9時 東武日光線柳生駅前
交通：東北本線大宮8：12発→栗橋8：41着、
東武日光線乗り換え8：55発→柳生9
：04着
解散：午後1時ごろ
担当：山部直喜、松井昭吾、五十嵐浩、中島
康夫
見どころ：冬枯れの芦原で、猛禽ウォッチン
グ。両翼を大きく広げて蒼穹を舞う、
彼らの雄姿に感激！ 猛禽の数の多さ
は自然の豊かさ、そんなことも考えな
がら楽しく探鳥会。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：12月10日（日）
集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9：00発→大麻生9：10
着 / 秩父鉄道寄居8：52発→大麻生
9：10着
解散：午後1時ごろ
担当：諏訪隆久、岡安征也、林滋、町田好一
郎、逸見嶮、内藤義雄、関口善孝、田
口浩司、宮坂亨
見どころ：コハクチョウはまだかな？ 冬の
便りを携えて、遠い北国から渡来する
コハクチョウ。長旅の疲れをいやす彼
らをそっと見守って、今年の大麻生の
しめくくり。

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
探鳥会に参加される場合、持ち物は、筆記
用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼
鏡など。参加費は、一般＝100円、会員及び
中学生以下＝50円。受付は探鳥会当日です。
特別な場合を除いて予約申込みの必要はあり
ません。小雨決行です。

夢中になりすぎて、鳥を驚かしたり、植物
を荒らしたりしないように。タバコの吸い殻
やゴミを散らかすなんて事はもってのほか。
いつもフィールドマナーをお忘れなく。

身支度ができたら、さあ出発！

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：12月17日（日）
集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または
午前9時 浦和市立郷土博物館前
（北浦和駅の場合、その後バス利用）
解散：午後1時ごろ
後援：浦和市立郷土博物館
担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、乗田
実、手塚正義、伊藤芳晴
見どころ：いよいよ三室は冬本番。冬場の里
の鳥、川辺の鳥を気軽に楽しむなら、
やはり三室はお勧めです。時の経つ
も忘れて、今年最後の三室を満喫。

滑川町・森林公園探鳥会

期日：12月17日（日）
集合：午前10時 森林公園南口
交通：東武東上線川越9：09発→森林公園9
：32着、東武バス乗り換え、森林公園
南口行き9：42発→南口9：52着
解散：午後1時ごろ
費用：入園料360円（子供80円）は各自で
負担願います。
担当：諏訪隆久、榎本秀和、岡安征也、橋本
博夫、逸見嶮、田口浩司
見どころ：林の小径をたどって、沼から沼へ
ウォッチング。笹藪からはシロハラ
の音が聞こえます。ルリビタキやアカ
ハラも期待できそう。そして、沼を埋め
つくすカモ、カモ、カモ。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：12月23日（土・祝）午後1時～3時頃
会場：支部事務局
案内：また来年も、すばらしい野鳥と友人に
巡り合えますように…。想いを込めて
「1月号」の袋づめ。

野鳥写真クラブ定例会

とき：12月28日（土・祝）午後3時頃～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ
案内：会員の交流の場として、写真をやらない
方でも楽しさいっぱいの集まりです。

年末講演会

期日：12月24日（日）
会場：浦和市立コミュニティーセンター（浦
和駅西口から県庁通り西進、中仙道を
左折して約600m右側）3階視聴覚室
プログラム：●午後2時～2時30分 前座の
スライド映写「埼玉県支部の1年」。
支部活動に関するスライドを披露し
てくださる方、事前に事務局までご連絡
ください。真面目なのから笑えるもの
まで、いろいろ見せてください。
●午後2時30分～4時30分 講演会
「鳥華抄・撮影裏話」。
写真集『鳥華抄』の叶内拓哉さんが、
スライドをまじえて、タイトルにこだ
わらない話を展開してくれます。これ
はめったにないチャンス。埼玉県支部
の会員たちへの、ビッグなクリスマス
プレゼントですね。
担当：海老原美夫



榎本秀和

浦和市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：平成2年1月3日（水）
集合：午前9時30分 さぎ山記念公園駐車場
交通：大宮駅東口7番バス乗り場（高島屋向
い側）から中野田引返場行き8：40発
→上野田下車／浦和駅西口1番バス
乗り場からさぎ山記念公園行き8：55
発→終点下車
解散：午後1時ごろ
担当：海老原美夫、松井昭吾、金子真理
見どころ：恒例の新年早々探鳥会。テレビや
お屠蘇に飽き飽きしたら、野外に飛び
出して、野鳥や鳥仲間に新年のご挨拶。

千葉県・銚子港探鳥会（要予約）

期日：1月20日（土）午後～21日（日）
集合：1月20日午後5時40分 銚子駅改札口
交通：東京15：45発総武本線特急しおさい9
号が便利。自動車の方は宿に直行可。
費用：9,000円ぐらいの予定（1泊3食、参
加費、保険料など）。
定員：20名程度（先着順、支部会員優先）
申込み：往復葉書に住所、氏名、電話番号、
年齢、性別を書いて北川慎一（〒367
本庄市銀座 ）まで。
担当：北川慎一、榎本秀和
見どころ：日本一のカモメの名所、銚子港を
訪ねます。まず夜は、海の幸と鳥談義
で交流を深めましょう。そして翌日は、
地元の方の案内で、カモメの識別をじ
っくり勉強しましょう。
注意：防寒に充分留意しておでかけください。

1月7日（日） 久喜市・昭和池探鳥会
1月13日（土） 長野県・軽井沢探鳥会
1月14日（日） 熊谷市・大麻生探鳥会
同 日 川越市・西川越探鳥会
1月15日（祝） ガン・カモ類県内一斉調査
1月20日（土） 茨城県・菅生沼探鳥会
1月21日（日） 浦和市・三室地区探鳥会
同 日 嵐山町・菅谷館跡探鳥会
1月28日（日） 吉見町・吉見百穴探鳥会
同 日 越谷市・古利根川探鳥会

行事報告

10月1日(日) タカの渡り調査

参加者 荒木恒夫、石松康幸、井上茂、榎本秀和、榎本みち子、海老原美夫、岡安征也、岡安ゆかり、小淵健二、金井敦美、金井祐二、河辺達朗、北川慎一、草間和子、楠川雅之、楠見邦博、小荷田行男、佐久間博文、杉本秀樹、鈴木信、鈴木忠雄、関口芳孝、高橋定司、武田靖彦、原田昌清、浜田和子、林滋、藤野富代、逸見嶮、増尾節子、増尾隆、町田好一郎、松井昭吾、松本生男、村部孝、矢野太郎、山口輝雄、山口博、吉原俊雄、吉野邑(40人) 絶好の調査日和に恵まれ、かなりの数がカウントされた模様。参加者は、渡りを見る感動と疲れ目の二つのプレゼントをもらったことでしょう。皆さんどうもご苦労様でした。

10月1日(日) 川口市 差間

人 37人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ カワウ アマサギ チュウサギ コサギ カルガモ サシバ キジ シラコバト キジバト ツツドリ アマツバメ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ エゾビタキ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 芝川沿いには、真赤なヒガンバナが咲きみだれ、日差し強く暑い中にも季節は確実に秋。旅の途中のアマツバメ、ノビタキ、ツツドリを参加者全員で観察。ここではあたりまえのシラコバトもじっくり観察でき、参加者も満足されたろう。

まだまだひなびた風景が残る差間。自然いっぱい次の探鳥会も期待してください。

10月8日(日) 熊谷市 大麻生

人 44人 **天気** 晴 **鳥** ダイサギ コサギ カルガモ ハチクマ トビ ノスリ チョウ

ゲンボウ コジュケイ イソシギ キジバト ツツドリ カワセミ コゲラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス

(32種) 挨拶もそこそこにいきなりノスリが通過する。そして、鳥合わせ前にはハチクマが飛ぶ。この秋も大麻生は猛禽のメッカとなった。「期待」の秋の旅鳥には会えなかったが、ツツドリを図鑑よりも鮮明に観察して、ツツドリにとっては、声はすれども……の汚名を挽回する機会となった。ヒヨドリやカケスの群れが上空を通過していき、彼等も渡りをしているのだろうかと思う。カワセミ? ここでは常識です。

10月10日(休) 北川辺町 渡良瀬遊水池

人 40人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ ミサゴ トビ ノスリ チュウヒ チョウゲンボウ ムナグロ タシギ キジバト アマツバメ カワセミ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス (29種) 抜けるような青空をバックに2羽のミサゴがソワリング。全員感激。他にもチュウヒ、ノスリ、チョウゲンボウと次々現われ、十分にワシ・タカ類を楽しめた。しかし、カモ類やシギ・チドリ類はさっぱりだった。

10月15日(日) 浦和市 三室地区

人 71人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ ゴイサギ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ ハイタカ コジュケイ バン

タカブシギ イソシギ タシギ キジバト
 カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハ
 クセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モ
 ズ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワ
 ラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ
 ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) カ
 ワセミが2カ所で出現。人気者の登場に全員
 歓声を上げる。今年はダイサギが多く、黄色
 のくちばしが目立った。

10月22日(日) 荒川村 日野溪谷

人 31人 天気 晴後曇 鳥 ノスリ キジ
 バト コゲラ キセキレイ セグロセキレイ
 ヒヨドリ モズ カワガラス ジョウビタキ
 ウグイス キクイタダキ シジュウカラ メ
 ジロ ホオジロ スズメ ムクドリ カケス
 オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス
 (20種) この秋初めてのジョウビタキがきれ
 いだった。ハイキング向きのコースは変化が
 あって楽しい。帰り道、イノシシの足跡やム
 ササビが木の穴から顔を出すのも見られた。

10月24日(火) 栃木県奥日光 戦場ヶ原

人 28人 天気 晴 鳥 マガモ オナガガ
 モ ヒドリガモ ホシハジロ トビ キジバ
 ト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セ
 グロセキレイ ジョウビタキ ノビタキ ツ
 グミ アカハラ シロハラ マミチャジナイ
 コガラ ヒガラ シジュウカラ エナガ ゴ
 ジュウカラ ウグイス キビタキ コサメビ
 タキ ホオジロ アオジ アトリ ウソ シ
 メ イカル カシラダカ スズメ カケス
 モズ ハシボソガラス ハシブトガラス (36
 種) 快晴に恵まれ、素晴らしい紅葉の中をス
 タート。その直後、ウソの群れを間近でじっ
 くりと見られた。湯川沿いでは、マミチャジ
 ナイ、シロハラ、ツグミ、シメ、アトリ等の
 冬鳥が、光徳入口では雄のキビタキ、ノビタ
 キ、コサメビタキ等の夏鳥が見られるという、
 平日のぜいたくで楽しい探鳥会だった。

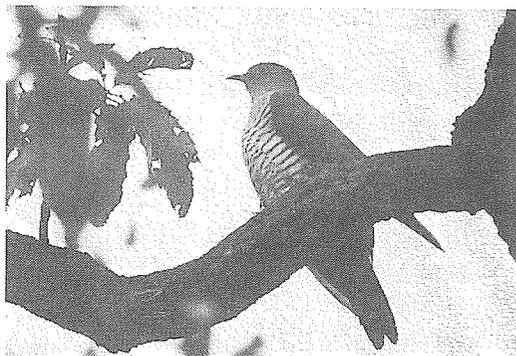
10月28日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 岩波勇一、海老原教子、
 海老原美夫、河辺達朗、小林恒雄、鈴木秀男、

登坂久雄、中村治、長谷部謙二、馬場昇、平
 野樹夫、藤野富代、村上久美子、遊佐京子、
 吉田二三子、吉原俊雄、渡辺敦、渡辺孝章
 (18人)

10月28日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 20人 作品発表した人 7人



ツツドリ (鈴木秀男・大宮市)

11月3日(休) 上尾市 丸山公園

人 40人 天気 晴 鳥 カイツブリ ゴイ
 サギ コサギ アオサギ カルガモ コジュ
 ケイ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ
 キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ
 ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウ
 グイス コガラ シジュウカラ メジロ ホ
 オジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ
 シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ
 ハシボソガラス (31種) 朝、静けさの中で鳥
 を見るのは最高の気分…。もちろんカワセミ
 も登場。アシ原では、アオジ、カシラダカな
 ど冬鳥たちが出そろい、モズの高鳴きを聞き
 ながら深まりゆく秋を楽しみました。「早朝
 のひととき、病みつきになりそう！」



(押川歳子)



最後の冬鳥分布調査です

夏と冬の県内野鳥分布調査を始めて5年が過ぎました。ひとつの区切りとして、今回の冬鳥調査で終りとします。今後は、5年間のまとめをすることになります。

最後の分布調査にご協力ください。

調査期間は12月1日から、来年1月31日まで。

期間中にあなたのフィールド（1km平方くらいをひとつの単位としてください）で観察した鳥の種類とおおよその数をメモしておいてください。

期間が終了しましたら、今月号に同封したはがきに記入して、ポストに投函してください。料金受取人払いですので、切手をはる必要はありません。

最後の調査の注目種はシラコバト。変化しているといわれていますが、今の分布状態を明らかにしたいと思っています。

原稿や情報をおよせください

本誌への投稿原稿、カット、会員の声、野鳥情報など、どんどんお寄せください。

事務局へのお便りのうち、本誌への投稿なのかどうかははっきりしないで悩むものがあります。遠慮しないで、堂々と『しらこぼと』に掲載しろと書いてください。

野鳥情報は、緊急の場合を除き、はがきなどでお寄せください。ボランティアで電話の応答もしていますが、会員の皆さんも、出来るだけボランティアの手数を減らすことにご協力いただければありがたいのです。電話では間違いが起こる可能性も高くなりますので。

支部への苦情や提言・ご意見などもお待ちしております。

11・12月の土曜日当番(午後2～6時)

- 11月11日(土) 小淵健二、登坂久雄
- 11月18日(土) 諏訪隆久、町田好一郎
- 11月25日(土) 袋づめの会(1時から)
- 12月2日(土) 榎本秀和、岡安征也
- 12月9日(土) 海老原美夫、山部直喜
- 12月16日(土) 草間和子、林 滋
- 12月23日(土) 袋づめの会(1時から)
- 12月30日(土)と1月6日(土)は、休みます。11月の当番の掲載が遅くなりました。ごめんなさい。

会員数は

11月20日現在 1,135人です。

活動報告

- 10月2日 当支部のリーダー研修会に関する資料を、関東ブロック各支部に送付。
- 10月7日 普及部会議(15日も)。
- 10月14日 編集部会議。
- 10月15日 総務部会議。役員会議(司会:手塚正義、次期支部代表評議員、その他)。
- 10月20日 アズ熊谷で打ち合わせ(海老原)。
- 10月23日 11月号校正(大武、西城戸)。
- 10月25日 フェスティバル事業部準備(草間)。
- 10月31日 アズ熊谷展示作業(海老原)。



10月の休みに雲取山を、三峰から奥多摩湖と登って来ました。天気も良く、1泊2日のすばらしい山行でした。久しぶりの山歩きも楽しいものでしたが、この山歩きのきっかけを作ってくれたYさんの心のこもった案内状と、奥多摩支部の皆さんとの焼肉パーティーが、心に残っています。野鳥の会の仲間が与えてくれた大きなプレゼントに感謝して、今後共鳥仲間達とのつながりを深めたい。(楠見邦博)

『しらこぼと』1989年12月号(第67号)

定価 100円(会費に含まれます)

発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062

〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)